

水道事業経営指標		単位	令和4年度 決算値	類似団体 平均	計算式	説明
経営 の 健全 性・ 効率 性	①経常収支比率	%	108.87	108.04	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示すものである。従って、この比率が高いほど経常利益率が高いことを表し、これが100%未満であることは経常損失が生じていることを意味する。
	②累積欠損金比率	%	0.00	4.72	$\frac{\text{累積欠損金}}{\text{営業収益}} \times 100$	営業収益に対する累積欠損金の割合で、事業体の経営状況が健全な状態にあるかどうかを把握する指標
	③流動比率	%	366.91	345.94	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	支払義務としての流動負債に対する支払手段としての流動資産の割合を示すものであり、短期債務に対する支払能力を表している。
	④企業債残高対給水収益比率	%	647.08	386.61	$\frac{\text{企業債残高合計}}{\text{給水収益}} \times 100$	企業債残高の規模を示すもので、企業債の支払い能力を表しており、低いほど良い。
	⑤料金回収率	%	80.00	93.82	$\frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}} \times 100$	供給単価と給水原価との関係を見るものであり、料金回収率が100%を下回っている場合、給水にかかる費用が水道料金による収入以外に他の収入で賄われていることを意味する。
	⑥給水原価	円	298.23	178.94	$\frac{\text{経常費用-(受託工事費+材料及び不用品売却原価+付帯事業費)-長期前受金戻入}}{\text{年間総有収水量}} \times 100$	有収水量1㎡当たりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標である。
	⑦施設利用率	%	70.90	59.54	$\frac{\text{1日平均配水量}}{\text{配水能力}} \times 100$	配水能力に対する配水量の割合を示すもので、施設の利用状況を総合的に判断する上で重要な指標である。一般的には高い数値が良いとされる。
	⑧有収率	%	89.17	83.93	$\frac{\text{年間総有収水量}}{\text{年間配水量}} \times 100$	配る水(配水量)と、料金として賦課された水量の割合。有収率の低下は漏水などの要因が考えられる。
老 朽 化 の 状 況	①有形固定資産減価償却率	%	49.18	50.82	$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$	償却資産における減価償却済の部分の割合を示す比率である。この比率により減価償却の進み具合や資産の経過年数を知ることができる。
	②管路経年化率	%	17.39	21.16	$\frac{\text{法定耐用年数を経過した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$	法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す指標で、管路の老朽化割合を示している。
	③管路更新率	%	0.27	0.48	$\frac{\text{当年度に更新した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$	当年度に更新した管路延長の割合を表す指標で、管路の更新ペースや状況を把握できる。

下水道事業経営指標		単位	令和4年度 決算値	類似団体 平均	計算式	説明
経営 の 健全性・ 効率性	①経常収支比率	%	115.72	107.19	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示すものである。従って、この比率が高いほど経常利益率が高いことを表し、これが100%未満であることは経常損失が生じていることを意味する。
	②累積欠損金比率	%	0.00	31.07	$\frac{\text{累積欠損金}}{\text{営業収益}} \times 100$	営業収益に対する累積欠損金の割合で、事業体の経営状況が健全な状態にあるかどうかを把握する指標
	③流動比率	%	37.35	51.09	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	支払義務としての流動負債に対する支払手段としての流動資産の割合を示すものであり、短期債務に対する支払能力を表している。
	④企業債残高対事業規模比率	%	14.4	1194.56	$\frac{\text{企業債残高合計}}{\text{給水収益}} \times 100$	使用料収入に対する企業債残高の割合であり、企業債残高規模を表している。
	⑤経費回収率	%	99.93	76.78	$\frac{\text{下水道使用料}}{\text{污水处理費(公費負担分を除く)}} \times 100$	使用料で回収すべき経費(維持管理費)をどの程度使用料で賄えているかを表している。
	⑥污水处理原価	円	173.61	224.31	$\frac{\text{污水处理費(公費負担分を除く)}}{\text{年間有収水量}} \times 100$	有収水量1m ³ 当たりの污水处理に要した費用であり、どれだけの費用がかかっているかを表す指標である。
	⑦施設利用率	%	43.21	47.32	$\frac{\text{1日平均処理水量(晴天時)}}{\text{現在処理能力(晴天時)}} \times 100$	施設・設備が1日に対応可能な処理能力に対する、1日平均処理水量の割合。施設の利用状況や適正規模を判断する。
	⑧水洗化率	%	89.25	81.33	$\frac{\text{現在水洗便所設置済人口}}{\text{現在処理区域内人口}} \times 100$	現在処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して污水处理をしている人口の割合。100%に近づけることが望ましい。
老朽化 の 状況	①有形固定資産減価償却率	%	48.69	22.89	$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$	償却資産における減価償却済の部分の割合を示す比率である。この比率により減価償却の進み具合や資産の経過年数を知ることができる。
	②管渠老朽化率	%	0.00	0.00	$\frac{\text{法定耐用年数を経過した管渠延長}}{\text{下水道布設延長}} \times 100$	法定耐用年数を超えた管渠延長の割合を表す指標で、管渠の老朽化度合を示している。
	③管渠改善率	%	0.00	0.09	$\frac{\text{改善(更新・改良・修繕)管渠延長}}{\text{下水道布設延長}} \times 100$	当年度に更新した管渠延長の割合を表す指標で、管渠の更新ペースや状況を把握できる。